

高原町教育研究所

I	研究主題	9-1
II	主題設定の理由	9-1
III	研究の目標	9-1
IV	研究の仮説	9-1
V	研究の全体構想	9-2
VI	研究の実際	9-3
1	基本的な研究の考え方	
(1)	実生活で生きて働く学力とは	
(2)	9年間を見通した小中一貫教育の考え方	
ア	系統的な指導について	
イ	系統性を意識した指導者の共通理解と共通実践	
2	全国学力調査の分析と課題の明確化	9-4
(1)	調査の概要	
(2)	結果	
ア	国語科の結果	
イ	算数・数学科の結果	9-5
(3)	「たかはるの子」の課題	
ア	国語科についての課題	
イ	算数・数学科についての課題	
3	小・中学校の9年間を見通した系統表の作成	9-6
(1)	国語科学習指導研究班	
(2)	算数・数学科学習指導研究班	9-7
4	活用事例	9-8
(1)	国語科学習指導研究班	
ア	小学校の活用事例	
イ	中学校の活用事例	
(2)	算数・数学科学習指導研究班	9-9
ア	小学校の活用事例	
イ	中学校の活用事例	
VII	研究の成果と課題	9-10
1	研究の成果	
2	研究の課題	

【参考文献】

【研究同人】

I 研究主題

実生活で生きて働く学力をはぐくむ授業の創造
～「たかはるの子」の9年間を見通した小中一貫教育を通して～<1年次>

II 主題設定の理由

社会情勢の変化の激しい今日、将来を担う子どもたちに確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和を重視する「生きる力」をはぐくむことが重要である。平成20年3月に告示された小学校学習指導要領においても、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させること、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等の能力をはぐくむことの双方のバランスを重視した確かな学力の育成が示されている。

本研究所では、昨年度まで「ふるさとを愛する『たかはるの子』の育成」を主題として高原ならではの地域素材を生かした小中一貫教育の研究を4年間の計画で進めてきた。また、本町では、小中一貫教育を積極的に推進し、高原中学校区及び後川内中学校区における合同研修会や合同授業研究会等を計画的に行い、知・徳・体のバランスのとれた児童・生徒の育成に努めている。地域素材集の作成やふるさと学習の年間指導計画への位置付けなど、一定の成果が得られた。一方、「生きる力」の知の側面である学力については、以前から課題があり、本年度から学力向上に向けた研究へ取り組んでいる。新たな研究のスタートとして、まず、高原町内の児童・生徒の学力の実態を把握し、教育的課題の焦点化を図るために、全国学力調査の結果の分析を行った。その結果、国語科については、つなぎ言葉を理解して表現へ活用する力や話し合いの場面における話す・聞く力、そして実用的文章を読み取る力などの児童・生徒の共通した課題が見られた。また、算数・数学科については、分数の計算や式と計算の順序、資料の読み取りに児童・生徒の共通した課題も見られた。これらの結果から、学力向上を図るには、小・中学校の9年間を見通した系統的な指導により児童・生徒の将来の生活に生きて働く力を児童・生徒に身に付けさせることが重要であり、研究課題の解決への糸口となると考える。言い換えれば、小・中学校の義務教育の過程で児童・生徒が実感を伴って基礎的・基本的な知識・技能を習得し、課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けることが不可欠となる。

そこで、本研究所は、本町の児童・生徒「たかはるの子」の学力を正確に把握するために行った全国学力調査の分析を活用しながら、児童・生徒の学力の課題を明確にし、めざす児童・生徒像の具現化を図る。小中一貫教育の特徴である9年間を見通した指導の充実が図られるように、研究班を「国語科学習指導研究班」「算数・数学科学習指導研究班」の2つに分けて研究を進めていく。この研究体制のもと、調査の分析の結果から分かった課題を、「たかはるの子」に身に付けさせたい学力とし、系統的な指導の充実を図るための系統表の作成をする。さらに、この系統表を生かした「分かる授業づくり」の指導方法の研究を進めるために実践的な研究を行う。このように研究を進めることにより、本町の「たかはるの子」が実生活で生きて働く学力をはぐくみ、ふるさと高原の将来を担う児童・生徒へと成長させることができると考え、本主題を設定した。

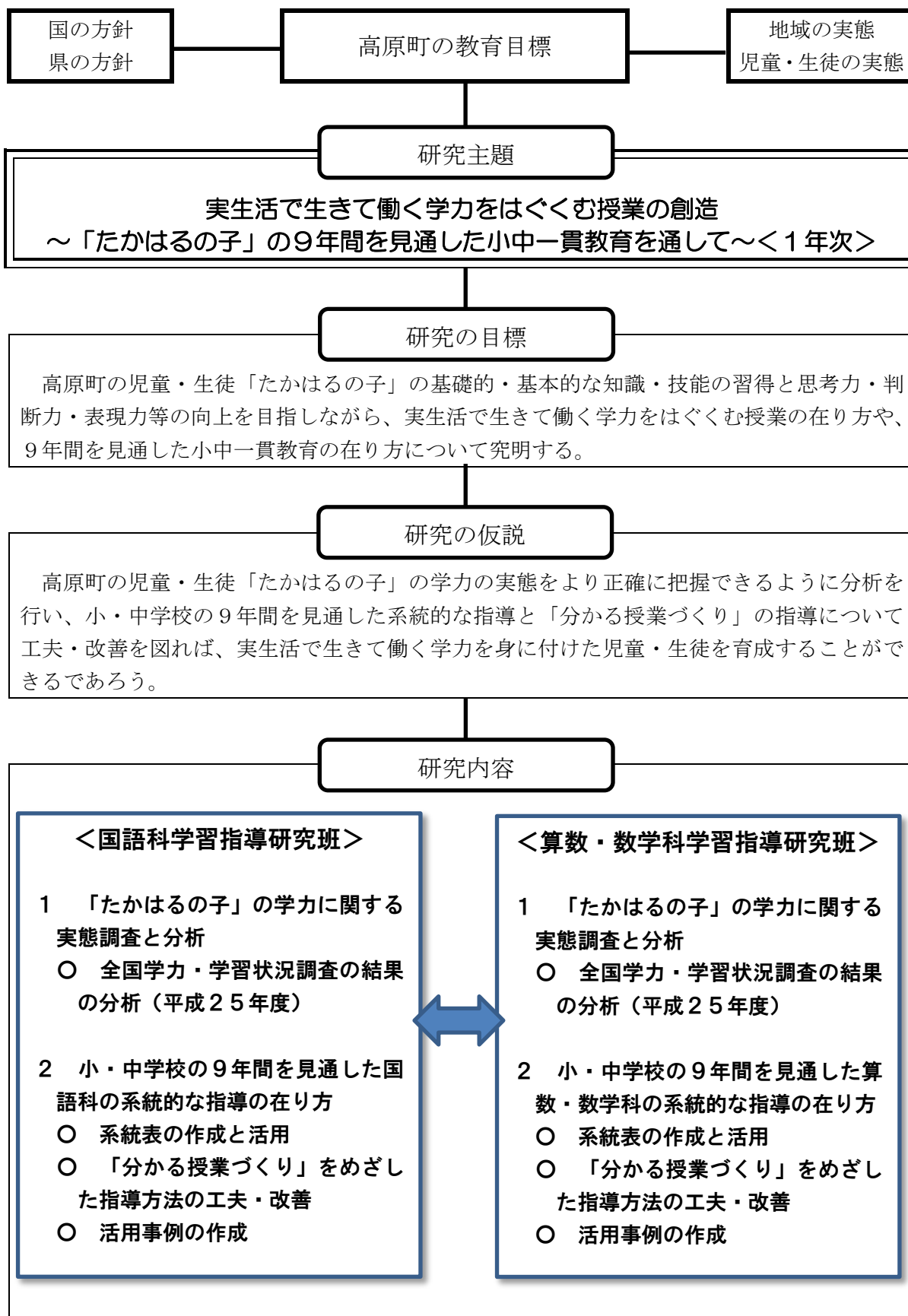
III 研究の目標

高原町の児童・生徒「たかはるの子」の基礎的・基本的な知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の向上を目指しながら、実生活で生きて働く学力をはぐくむ授業の在り方や、9年間を見通した小中一貫教育の在り方について究明する。

IV 研究の仮説

高原町の児童・生徒「たかはるの子」の学力の実態をより正確に把握できるように分析を行い、小・中学校の9年間を見通した系統的な指導と「分かる授業づくり」の指導について工夫・改善を図れば、実生活で生きて働く学力を身に付けた児童・生徒を育成することができるであろう。

V 研究の全体構想



VI 研究の実際

1 基本的な研究の考え方

(1) 実生活で生きて働く学力とは

これからの社会を生き抜くためには、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等をバランスよく身に付けさせ、児童・生徒の学力の質を高める視点が重要となる。この視点を踏まえ、実生活で生きて働く学力とは、生涯にわたり実社会を主体的に生きていくための学力としてとらえた。

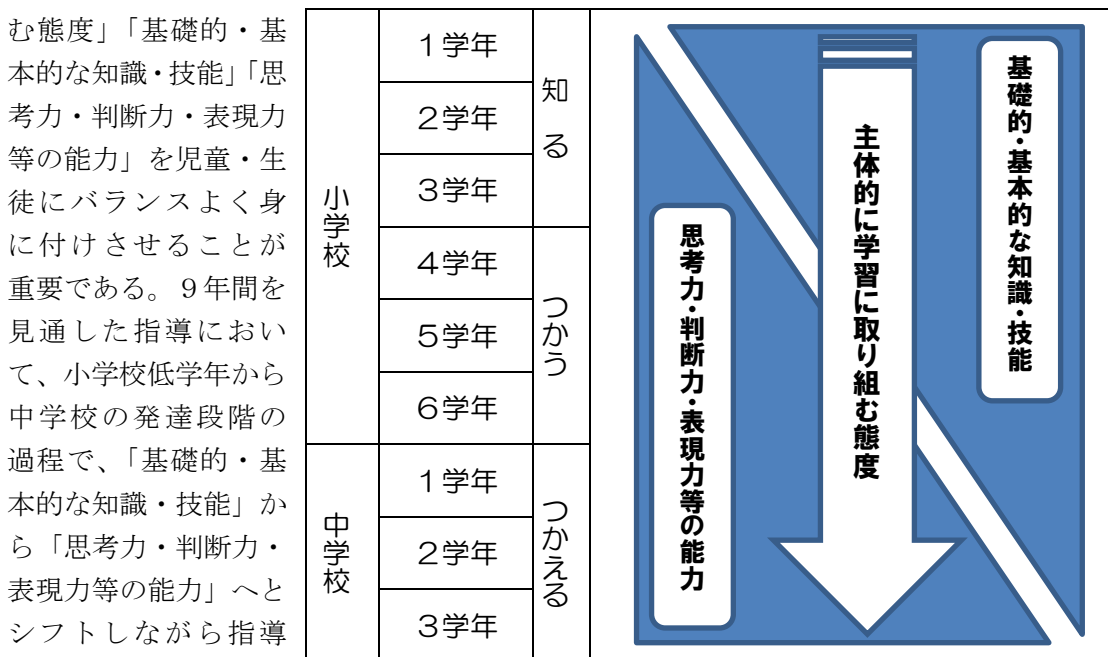
(2) 9年間を見通した小中一貫教育の考え方

ア 系統的な指導について

実生活で生きて働く学力を身に付けさせるには、小・中学校の9年間を見通した系統的な指導が不可欠である。国語科学習指導班では、系統的な指導を図1に示すように児童・生徒の発達段階に応じて3つの「知る」「つかう」「つかえる」段階にわけて指導することにより、9年間を見通した系統的な指導を行うことができると考えた。この3段階の位置付けは、系統性が分かりにくいという教科の特性を考え、9年間を見通した指導のめやすとして活用したい意図で行った。

算数・数学科学習指導班では、教科の特性を生かして、9年間を見通しながら系統性を意識した指導の実践ができるような工夫をすることが重要であると考えた。そのためには、指導者である教師が常に意識できるような系統表作りを研究として進めている。

小・中学校一貫した指導を行う際、学力の3つの要素である「主体的に学習に取り組む態度」「基礎的・基本的な知識・技能」「思考力・判断力・表現力等の能力」を児童・生徒にバランスよく身に付けさせることが重要である。9年間を見通した指導において、小学校低学年から中学校の発達段階の過程で、「基礎的・基本的な知識・技能」から「思考力・判断力・表現力等の能力」へとシフトしながら指導することをめざしたい。



【図 1】

イ 系統性を意識した指導者の共通理解と共通実践

9年間を見通した小中一貫教育を推進する原動力は、小学校、中学校が課題の共有化を図り、同じ意識で系統的な指導に取り組むことである。本研究では、系統表作りをはじめ、「分かりやすい授業づくり」の研究を通して、小・中学校の授業研究会の実施など共同研究の機会を設ける工夫も行っていく。

2 全国学力調査の分析と課題の明確化

(1) 調査の概要

新たな研究を進める上で、高原町内の児童・生徒の学力の実態を把握する必要があり、小学校4校と中学校2校でそれぞれの学校が実施している学力テストの中から全国学力調査（平成25年度）を選び、学力を測る指標とした。他にもNRTやCRTなどの学力を測るテストはあったが、NRT・CRTテストは全国的に見た時に実施状況に差があること、全国学力調査が小・中学校の集大成となる小学6年生と中学3年生を対象としていることを考慮して全国学力調査を選んだ。

調査した内容は、全国学力調査の国語、算数・数学の2教科とし、調査対象は小学6年生（95名）と中学3年生（84名）である。調査した結果が課題の明確化につながるように、以下のように調査を行った。

- 小学校（4校）、中学校（2校）の各校の正答者数を全体の人数でわり、町内の小・中学校別々の正答率として処理し直した。
- 全国及び宮崎県の正答率と比較し、どちらからも10ポイント以上の落ち込みがあった設問を抽出した。小学校と中学校それぞれの落ち込みのあった設問を比較して、共通して課題のあった設問を小・中学校一貫教育の視点からみた課題として取り上げた。
- 抽出した設問に問われている学力を高原町内すべての小・中学生「たかはるの子」の課題として明確化した。

(2) 結果

上記の調査方法により、次のような結果となった。

ア 国語科の結果（全国比、県比で10ポイント以上差があった問題）

	問題の概要	出題の趣旨	備考
小	「だから」と同じような働きをする接続語として適切なものを選択する	接続語「だから」のもつ働きを理解する	結果① 小：A問題
中	出された意見を整理して、決定の理由を適切に書く	文の接続に注意し、伝えたい事柄を明確にして書く	中：A問題
小	6年生の助言の仕方の説明として適切なものをそれぞれ選択する	話し手の意図を捉えながら聞き、適切に助言をする	結果② 小：A問題
中	カードを使って話す際に使用する言葉の組合せとして適切なものを選択する	論理的な構成や展開を考えて話す	中：B問題
小	【本間さん・花田さんが書いたすいせん文】において推薦している対象を書く	2人の推薦文を比べて読み、推薦している対象や理由を捉える	結果③ 小：B問題
中	段落相互の関係について説明したものとして適切なものを選択する 図が示す内容を説明したものとして適切なものを選択する	段落相互の関係を理解し、文章の展開を捉える 図と文章との関係を捉える	中：B問題

※ A問題は主として「知識」に関する問題、B問題は主として「活用」に関する問題




イ 算数・数学科の結果（全国比、県比で10ポイント以上差があった問題）

	問題の概要	出題の趣旨	備考
小	$16 - (6 + 3)$ を計算する	() を用いた整数の計算をすることができる	結果① 小：A問題 中：A問題
中	$2(5x + 9y) - 5(2x + 3y)$ を計算する	整式の加法と減法の計算ができる	
小	$\frac{2}{9} \times 4$ を計算する	乗数が整数である場合の分数の乗法の計算をすることができる	結果② 小：A問題 中：A問題
中	$\frac{5}{8} \times \frac{3}{4}$ を計算する	分数の乗法の計算ができる	
小	正しく測定できなかった結果を除いて平均を求めるときの正しい式を選ぶ	飛び離れた数値を除いた場合の平均を求める式を選択することができる	結果③ 小：B問題 中：B問題
中	与えられた表やグラフを用いて、水温が80℃になるまでにかかる時間を求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に証明することができる	




※ A問題は主として「知識」に関する問題、B問題は主として「活用」に関する問題

(3) 「たかはるの子」の課題

ア 国語科についての課題

結果①	結果②	結果③
調査の結果から、接続語の理解から活用して表現に生かすまでの一貫した指導が必要である。	調査の結果から、話し合いの場面においての話し手の意図を捉えた聞き方や論理的な話し方を高める一貫した指導が必要である。	調査の結果から、文章の展開を考えた読みや比較読みなど、実用的文章の読解力を高める一貫した指導が必要である。
		
小・中学校の系統的な課題① つなぎ言葉の指導	小・中学校の系統的な課題② 話す・聞く力を高める指導 (特に話し合う場面で)	小・中学校の系統的な課題③ 実用的文章を読み取る力を高める指導

イ 算数・数学科についての課題

結果①	結果②	結果③
調査の結果から、() がある時の計算の順序や因数分解の計算の仕方の指導が必要である。	調査の結果から、分数のかけ算に課題がある。分数のかけ算の計算の仕方の指導が必要である。	調査の結果から、資料を正しく活用して問題を解くことができるようにする指導が必要である。
		
小・中学校の系統的な課題① () がある時の計算の指導	小・中学校の系統的な課題② 分数のかけ算の指導	小・中学校の系統的な課題③ 資料の正しい活用の指導

3 小・中学校の9年間を見通した系統表の作成

(1) 国語科学習指導研究班

全国学力調査から見出された「つなぎ言葉」、「目的に応じて必要な情報を読み取る力」、「実用的文章を読み取る力」の3つの分野に絞って、それぞれ系統表（資料1）を作成することにした。系統表の作成に当たっては、同一分野を学ぶ9年間で3つの段階に分け、小学校1～3年を「知る」、4～6年を「つかう」、中学校の3年間で「つかえる」段階として位置付ける工夫をした。

「つなぎ言葉」を身に付けさせる指導の系統表

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
知る	小1年										
	小2年										
	小3年										
つかう	小4年										
	小5年										
	小6年										
つかえる	中1年										
	中2年										
	中3年										

文と文をつなぐ言葉の働きを考えよう
「だから」「しかし」「それに」「～ので」「～が」「～し」

指示する語句と接続する語句

【資料1】

ア 「つなぎ言葉」について

中学1年からの3年間で、文法事項としてつなぎ言葉（接続語）を学習する単元は各学年に出てくる。小学校においても、1年生の教科書からつなぎ言葉が本文に登場する。しかし、小学1年から3年においては、つなぎ言葉を学ぶ単元は全く位置付けられておらず、4年生で初めて学習することが分かった。そこで、小学校の段階で、文章の読み取りから日常的につなぎ言葉を意識させておくことが必要であると考えた。「知る」段階では、どのようなつなぎ言葉があるのかに気付き感覚的に意味をつかむこと、「つかう」段階では、前後のつながりを考えて適切なつなぎ言葉を選択できること、「つかえる」段階では、文章を効果的なものにするために、より適切なつなぎ言葉を吟味することをねらって、揭示物（資料2）の作成をした。

「知る」段階
「つかう」段階
「つかえる」段階

「つなぎ言葉」の活用方法

「知る」段階：つなぎ言葉（接続語）の働きを学ぶ。例：だから、しかし、それに、～ので、～が、～し。

「つかう」段階：つなぎ言葉を使って短文を作ってみよう。例：きごうをつけて かんがえると わかりやすい。

「つかえる」段階：つなぎ言葉（接続語）の活用方法を学ぶ。例：筋道の通るつなぎ言葉をさがしてみよう。

【資料2】

イ 「目的に応じて必要な情報を読み取る力」「実用的文章を読み取る力」について

「目的に応じて必要な情報を読み取る力」「実用的文章を読み取る力」の2つについては、特に実際の生活の中で活用する力として身に付けさせたい内容である。9年間で2つの力を付けるための単元が重なるものも数多く出てきており、今後、更に精選して効果的な系統表を作成することが求められる。

(2) 算数・数学科学習指導研究班

全国学力調査から見出された「分数」、「式と計算の順序」、「資料の読み取り」の3つの分野に絞って系統表を作成することにした。

ア 分数の指導における系統表について

全国学力調査に出題された帯分数を含む同分母分数の加法や減法は、「量感を養う」という観点から現行の学習指導要領が施行された際、第4学年に新たに加えられた内容である。この定着を図るためには、当該学年へつながる基礎的・基本的な内容、その後の発展的な内容を、9年間を通して段階的に指導していく必要がある。

そこで、分数の指導における既存の系統表を検討した。しかし、私たち教師が具体的な授業の様子を思い浮かべることができる系統表がなく使いづらさを感じ、本研究所で授業場面を想起しやすい、一目で分かる系統表を以下の点に留意し作成した。(資料3)

- 学習指導要領の内容を明記する。
- 日頃扱っている教科書の具体的な問題や表・図を用いる。
- 全国学力調査の問題と関連する箇所を表の中央に大きく示す。
- 全国学力調査の問題につながる基礎的・基本的な内容を表の左側に示す。
- 発展的な内容を表の右側に示す。
- 掲載する問題や資料を必要最小限にとどめる。

分数の指導における系統表

2年
分数の素地
1/2 1/4 1/8

全国学力調査出題

(6) $2\frac{5}{7} + 1\frac{1}{7}$

教科書との関連

4年下「分数」4下p.71
帯分数を含む同分母分数の加法の計算のしかたが教科書に示されています。帯分数の加法や減法は、仮分数に直して計算する方法と、帯分数を整数と真分数の和で表して計算する方法のどちらでも計算できることを確認しましょう。帯分数を仮分数に直すときは、計算間違いに注意するよう指導します。

5年
分数の意味 (第2義)
分数と小数、整数
約分、通分、分数の大小・相等

1 ジュースが 6 のいれものに $\frac{1}{2}$ 、 $\frac{1}{3}$ のいれものに $\frac{1}{3}$ しかいっていません。あわせて用います。
● 式を書いてみましょう。
式 $\frac{1}{2} + \frac{1}{3}$

7 $3\frac{1}{2} + 1\frac{2}{3}$ 、 $3\frac{1}{2} - 1\frac{2}{3}$ の計算をしましょう。

3年
分数の意味 (第一義) と表し方
同分母分数の大小

上の図は、1を5等分したものです。次の大きさを赤字数をかきましよう。

$\frac{2}{5}$ は $\frac{3}{5}$ より大きい
 $\frac{3}{5} > \frac{2}{5}$
 $\frac{2}{5}$ は $\frac{3}{5}$ より小さい
 $\frac{2}{5} < \frac{3}{5}$

6年
逆数の意味
割合を表す分数 (分数倍)
面積や体積
時間を表す分数

2 $\frac{2}{3} \times \frac{3}{4}$ 、 $\frac{3}{4} \times \frac{2}{3}$ の計算をしましょう。
● 縦にかけたり横にかけたり。
 $\frac{2}{3} \times \frac{3}{4} = \frac{2 \times 3}{3 \times 4} = \frac{2}{4} = \frac{1}{2}$
 $\frac{3}{4} \times \frac{2}{3} = \frac{3 \times 2}{4 \times 3} = \frac{2}{4} = \frac{1}{2}$

4年
分数の種類と相等
真分数、仮分数
帯分数
等しい分数

1 より小さい分数を **真分数**、1 に等しいか、1 より大きい分数を **仮分数** といいます。

$\frac{13}{5}$ は、2と $\frac{3}{5}$ をあわせた数で、2 $\frac{3}{5}$ と表します。
 $\frac{13}{5}$ や2 $\frac{3}{5}$ のように、整数と真分数の和になっている分数を **帯分数** といいます。

2 分数のたし算とひき算
1 $\frac{2}{3}m$ と $\frac{1}{3}m$ の長さのテープをあわせると、 $1m$ になりますか。

中1
正の数・負の数
文字式の計算
方程式
一次関数
比例・反比例
平面図形
空間図形
資料の活用

$(-\frac{5}{6}) \times \frac{9}{10} + (-\frac{5}{12}) \cdot \frac{7}{5} + \frac{14}{25}$
 $12\frac{3}{4} \times \frac{5}{6} \cdot \frac{2}{3} (38-29)$

中2
式の計算
連立方程式
一次関数
図形の調べ方
図形の性質と証明
確率

$\begin{cases} 3x-11=4y-15 \\ x-y=2 \end{cases}$
1の1より小さい正の数に1をかけると1が得られる数

中3
式の展開と因数分解
平方根
二次方程式
関数 $y=a \times x^2$
相似の図形
円の性質
三平方定理

$2\sqrt{3} \times \frac{3}{\sqrt{2}}$
 $x:4=9:12$
 $x=4 \times 9 \div 12$
 $x=3$
 $a^2-b^2=(a+b)(a-b)$

③ 等しい分数

【資料3】

イ 式と計算の順序及び資料の読み取りの系統表について

分数の系統表と同様に「式と計算の順序」及び「資料の読み取り」の系統表を作成した。

4 活用事例

(1) 国語科学習指導研究班

ア 小学校の活用事例

学 年	第4学年	単元名	文と文をつなぐ言葉の働きを考えよう
活用した資料	資料2「知る」段階		
<p>【児童の実態】</p> <p>どの児童もつなぎ言葉を日常的に使うことはできる。しかし、例文を示し「この間に『文と文をつなぐ言葉』を入れてみましょう。」という発問に対して、正しく答えることのできた児童は8割であった。(問題：宿題をわすれた。□□□□ しかられなかった。 誤答例：たまたま見つからなかったので) 2つの文の関係をとらえる段階では全員が理解できた。</p> <p>【指導の実際】</p> <p>教師がつなぎ言葉の意味を簡略化した記号の例を示すと、児童はすぐに興味を示し、例文の意味に合う記号を書き込もうとする意欲的な姿が多く見られた。さらに順接、逆接、並列・追加の3種類に色分けした、同じ意味をもつつなぎ言葉の一覧を示すと、誤答例のようにつなぎ言葉ではない言葉を書いていた児童も、適切なつなぎ言葉の中から答えを取り出すことができた。</p> <p>【考 察】</p> <p>同様の意味を示すつなぎ言葉はいくつもあり、正しい答えは一つではないことが分ると、児童はより自信をもって課題に向かうことができると感じた。同じ意味をもつつなぎ言葉にはどんなものがあるのかを知ったり、日常的に意識して使ったりできるようにするために、一覧にまとめた掲示物を常時示しておくことは児童の学習により有効であると感じた。</p>			

イ 中学校の活用事例

学 年	第1学年	単元名	文法の扉② 「だれが・何を・どうする？」
活用した資料	資料2「つかえる」段階		
<p>【生徒の実態】</p> <p>中学校に入学して、言葉のきまりを文法事項として整理し学習してきた1年生である。文節に分けることまではスムーズに理解してきた。しかし、単語に分ける部分、文節どうしの関係(文の成分)の理解には個人差が出てきている。まだ文法事項に抵抗なく学習に取り組み、理解したいという意欲があるのでやる気が持続できるような指導が必要である。</p> <p>【指導の実際】</p> <p>9月の「接続する語」において、自分たちでつなぎ言葉を記号化させてみた。前後の文からつなぎ言葉の意味を判断して考えたので、接続語の問題に取り組む様子は活発であった。しかし、多様なつなぎ言葉を判断する時に簡略化された記号の意味を定着させるには、掲示物を常時目に触れさせておくことが必要と感じた。</p> <p>【考 察】</p> <p>前後の文がどのような関係でつながっているのかを正確に判断していくことは、今後論理的な文章の読み取りや作文に大変役立つ。その手段としてつなぎ言葉の記号化は生徒たちにも取り組みやすかった。さらに、自分たちで記号を考えさせているため、記号にも個人の工夫が加えられていき発展していくことも考えられた。よって中学校では、この掲示物はモデル的な使用としてとらえ、生徒たちの自由な発想の記号化が加わって変化していく原型として提示されていってもよいのではないかと思う。そうすることで主体的な活動で読解が深められていく手段になると思う。</p>			

(2) 算数・数学科学習指導研究班

ア 小学校の活用事例

学 年	第3学年	単元名	分数
活用した資料	資料3		
【児童の実態】 <p>児童はこれまでに、「二分の一」や「四分の一」など、簡単な分数について実感的に理解してきている。本単元の学習では、テープ図を使って分数の大きさを実感的に捉えたり、定規を使わずに「三分の一」や「七分の一」をつくったりするなど、活動に積極的に取り組んでいる。しかし、分数を計算する活動では、分数でもたし算やひき算ができるのかと不思議そうにしていた。</p> 【指導の実際】 <p>本時は、簡単な同分母分数の加法・減法ができることをねらいとしている。系統表の2年生の時の図と3年生で学習した図を見比べ、図の違いを明らかにし、分数の意味を捉え直すことで、同分母分数は整数と同じように、たし算やひき算ができることを理解することができた。たし算やひき算ができると理解した児童は、自信をもって計算に取り組むことができた。</p> 【考 察】 <p>第2学年から第3学年では、分数の捉え方が「全体の半分」から「等分してできる部分の大きさ」へと変化する。この変化を捉えることが分数のたし算・ひき算への理解へとつながる。系統表の図を提示し比較する活動は、第2学年と第3学年の違いを理解するうえで有効であった。系統表は全体を提示するのではなく、例えば問題のみを比べたり、前学年だけ提示したりするなど様々な活用が考えられる。</p>			

イ 中学校の活用事例

学 年	第1学年	単元名	方程式「いろいろな方程式」
活用した資料	資料3		
【生徒の実態】 <p>本時の授業は、方程式に入って4時間目の授業である。これまでに「正の数・負の数」や「文字式の計算」を経て「方程式」の単元に入っているが、分数の計算を苦手とする生徒もいる。よって、小学校の復習を効率的に取り入れながら授業を進めていくことは、大変重要なこととなる。</p> 【指導の実際】 <p>本研究所で作成した「分数の計算に関する系統表」を用いて、復習の時間を10分ほど取り入れ、授業を進めてみた。まず、系統表から全国学力調査に出された分数の計算問題を解かせた。小学6年生時より正答率が20%近く上がっていることを知らせると、分数の計算に対して自信をもてたようだ。また系統表をプロジェクターで映し出し、小学3年時、4年時の内容を映し出すだけで、「通分」「約分」また「最小公倍数」「最大公約数」といった今後の計算のポイントになっていくキーワードが「懐かしい」という感想とともに、生徒の口から出された。その後、本時の課題を示したが、これまでとは反応が異なり、主体的に問題に取り組む態度が見られた。</p> 【考 察】 <p>授業後の生徒の感想では、「取り組みやすかった」「分かりやすかった」という声が多く聞かれた。また、具体的な問題が示された系統表を利用することは中学校教師にとっても、小学校での分数指導について調べ直す教材研究の準備をかなり軽減することができた。</p>			

Ⅶ 研究の成果と課題

1 研究の成果

- 全国学力調査の結果を分析することで、「たかはるの子」の得意・不得意とする国語力や算数・数学力の問題点が明らかになった。研究の目指すべき方向性を示唆する貴重なデータとなった。
- 系統表の作成を通して、国語的な実践力を養う方法手段として小・中学校の9年間のどの段階で教師側が意識して指導すべきか抽出できたことは、今後の学力向上の基盤に成り得る。
- 系統表に合わせた掲示資料を作成し活用することで、児童・生徒にも日常の生活において意識化を図ることができた。また、系統表は教師側だけでなく児童・生徒側にも活用できた。
- 国語科学習指導研究班と算数・数学科学習指導研究班で一貫教育の考え方について共通理解を図りながら研究を進めることができた。

2 研究の課題

- 「たかはるの子」の学力の実態をより正確に把握するためにも、具体的な誤答の傾向まで分析を行い、つまづきを指導の改善に反映させる工夫が必要である。
- 今後、授業に役立てられるように系統表の作成を目指していく。
- 町内の各学校へ研究の成果を広められるように、実践事例を増やして成果を示すことが課題である。
- 学力向上の視点から一貫教育の推進を図るために、より具体的な理論の構築と2つの研究班の連携を更に深めることが必要である。

【参考文献】

- ・ 「平成25年度宮崎県教育研究機関連絡協議会第31回研究発表大会研究集録」
平成26年2月 宮崎県教育研究機関連絡協議会
- ・ 「平成25年度全国学力・学習状況調査解説資料 小学校国語」
- ・ 「平成25年度全国学力・学習状況調査解説資料 中学校国語」
- ・ 「平成25年度全国学力・学習状況調査解説資料 小学校算数」
- ・ 「平成25年度全国学力・学習状況調査解説資料 中学校数学」
平成25年4月 国立教育政策研究所教育課程研究センター
- ・ 小学校学習指導要領 平成23年4月 文部科学省
- ・ 中学校学習指導要領 平成24年4月 文部科学省
- ・ 小学校国語教科書（東京書籍）
- ・ 中学校国語教科書（光村図書）
- ・ 小学校算数教科書（啓林館）
- ・ 中学校数学教科書（啓林館）

【研究同人】

所 属	職 名	氏 名	所 属	職 名	氏 名
教育委員会	所 長	江田 正和	狭野小学校	教 諭	黒木 賢一
教育総務課	研究指導員	濱砂 敬三	後川内小学校	教 諭	久保脇なぎさ
高原小学校	教 諭	川崎 直幸	高原中学校	教 諭	加治屋 誠朗
広原小学校	教 諭	瀬川 大輔	後川内中学校	教 諭	黒木 幸